

## 小論文を初めて学ぶ人たちへ

小論文はいまや大学入試においてきわめて重要な科目になりつつある。国公立大学の後期日程や一部の難関私立大学、そして推薦入試には必須科目でさえある。ところで、小論文という科目には、他の科目とは違った特徴がある。

正解のない科目——小論文に唯一の正解などはない。自分の「問い」と「答え」があるだけだ。

問題発見の能力——論述すべきテーマは設問で与えられているが、それは大きな一般テーマであって、自分が実際に論述すべき「問題」は自分で発見していかななくてはならない。

対話の能力——課題文が与えられ論述する問題に関しては、「問題発見」の手がかりをうるために筆者と十分に対話すること（課題文読解）が必要である。

分析と展開の思考力——自分がテーマに選んだ「問題」は、自分で解決していかなくてはならない。

プレゼンテーションの能力——自分の主張をいねいに論じ、読み手にくつきりと印象づける表現力が求められる。

私たちの「小論文入門」は、小論文を学ぼうとする人たちに、これらの能力を基礎から身につけてもらうために編集したものである。全体は一日一講で十日間という構成になっているから、速習を意図したように見えるかもしれないけれども、実際はそうではなくて、小論文学習のきわめて正統な道を、時間を十分かけて歩んでもらうことを目指している。順序どおりにやっていけば、小論文とはどのようなように読み、考え、書くものであるかが分かるはずだ。実践問題とその解説も付いているから、学んだことが身に付いたかどうかを試すことができる。

小論文も受験科目である以上、最終的には大学に合格してもらわなければならない。このため、私たちは本書の姉妹編として、入試に合格できる力を養うための問題集「合格できる小論文」を同時に編集した。本書をやり終えた人は、つづいてこちらへ進んでいただきたい。

なお、本書は安藤紀典・菅孝行・白川真澄・森永和英の編集・企画のもとに、別掲の人びとが分担執筆したものである。

## 第2日

コンビニエンス  
ストアありふれたことも  
深く観察すれば

## 読者の一語

小論文ってなにやら難しそうな問題ばかり扱うと思ったら大間違い。あなたのごく身近にあるありふれた現象や経験をテーマにすることも多い。ありふれたことでもよく観察してみるとなかなか奥行きが深いものだ。

やさしそうでやさしくないもの

日常普段よく見たり経験したりしているのに、いざ改まってその意味について聞かれると返答に困ることがあるものだ。いちばんよい例は第1日にやった「私」というものかもしれない。大抵の人は「自分のことは自分がいちばんよく知っている」と思っているけれども、では「私」とはどういう人間か、他人にも分かるように説明してごらんと言われると、うまく言葉では表せないことが多い。よく経験していることだからと言って、分かっているとはかぎらないということだ。

このように誰もが普段経験しているながら、その意味について改めて聞かれると困ってしまうような事柄を取り上げて、「立ち止まって、よく考えてごらん」と誘うような問題が小論文のなかにもある。簡単に答えられそうに思えるのだ

が、いざ書き出してみると当たり前すぎてあまり書くことがない。あるいは誰もが経験していることだから、よほど自分の考えの特徴を出さないで、誰も彼も似たような内容になってしま

う。つまりこの種の問題は書くのはやさしそうに見えて、特色ある答案を書くのは案外難しいということだ。

そういう問題の一つとして、次のような例を取り上げてみよう。

## 例題2

近年、コンビニエンスストアが全国的に普及している。なぜ、これが流行っているのか、その理由を四つ挙げて、あなたの「コンビニエンスストア論」をまとめなさい。

## 今もコンビニ、明日もコンビニ

これを読んでいる人のなかには、近所にコンビニエンスストア（以下、コンビニ）と約すこともある）がなく、日常的に利用したことがない人もいるかもしれない。ただその場合でも、どこかへ出掛けたついでに利用した経験はあるはずだ、という前提で説明するので了解してほしい。設問を見ると、コンビニエンスストアが流行する理由を四つ挙げよという条件がついている。どういう理由を挙げてよいかまわらないのだけれども、よく検討しておかないと、形だけは四つ挙がっていてもどれもあまり違いがなくて、「コンビニエンスストア論」としてまとめるときに論点が足りなかったりする恐れもあるから、多少順序立てて考えることにしよう。

どんな問題でも考える最初の手掛かりになるのは、「自分ならばどうするか」を想像すること

だ。だからあなたは実際にコンビニでどのような商品を買うことが多いか、メモに書き出してみよう。次いで自分はあまり買わないけれども、他にどんな商品が店頭に並んでいるかを思い出してみよう。

### MINIKOXUP ①

コンビニで普段自分が買うもの

### MINIKOXUP ②

コンビニには他にどんな商品があるか

「コンビニが流行る理由」を見つけ出すのが目的だから、そのためにまず、「考えるメモ①」

「考えるメモ②」で挙げた買い物、商品の種類別に大まかに分けてみよう。

- ・弁当やサンドイッチ、カップ麺など食品
- ・牛乳、コーヒー、ジュース、天然水など飲料品
- ・チョコレート、スナック菓子など嗜好品
- ・調味料やハム、チーズなど食材
- ・トイレットペーパー、洗剤、汚れ落としなど家庭雑貨
- ・歯磨き粉、洗顔クリーム、化粧品
- ・サインペン、マジック、ノートなど文具
- ・乾電池、電球、録音テープ
- ・新聞、雑誌、ビデオ

その他、日用品の数々が挙がることだろう。こうして分類してみると、自分は普段の生活のなかでどういう点でコンビニの世話になっているかが浮かび上がってくるとともに、あの狭いコンビニの空間にいくかに多くの商品が並んでいるか、あらためて思うことだろう。もともと「コンビニエンス」とは「便利」という意味で、それがコンビニが流行る理由の一つでもある。そこでもう一步踏み込んで、コンビニで売られている商品はどのような特徴をもっているかを分析してみよう。

この店の「売れ筋」はどんなもの

### MINIKOXUP ③

コンビニの商品にはどんな特徴があるか。

これにはいろいろな答え方があがるが、試しに次のように考えてみる。つまりコンビニで売られている商品は、種類こそちがうけれども、どれにもある種の共通点があるはずだと考えて、それを見つけ出すようにするのである。

- ・衣服や耐久消費財とは違って、コンビニで売られているものの多くはその日のうちに消費されるものである。だから毎日でもコンビニに通うことになる。

・料理の素材や部品などは少なく、ほとんどのものがすぐ食べたり使ったりできる完成品である。

・量は一人で食べ使える程度の分量である。惣菜なども一人分に小分けされている。

# 第10日

## 推薦入試に向けて

志望理由書の書き方

### きょうの一語

私たちの講義もこれが最後になった。きょうは推薦入試に関する基本的な事柄について解説する。ただし推薦入試のすべてではなく、自分で文章を書くという作業に関わる部分、すなわち小論文と志望理由書の二つについてである。

### 推薦入試と小論文

#### 内容も難易度も多種多様

「推薦入試の小論文は一般の小論文よりずっとカンタンだ」と考えている人は多い。しかし、実際の入試問題を見てみると、難易度も問題内容も、一般入試の場合と同様に多種多様であり、そう単純には言い切れない。「小論文」と名がつく以上、やはりそこで求められるのは、課題文を説解したり、自分なりの主題を発見したり、説得力をもって伝えるように文章構成や表現を工夫するといった作業や能力であり、この点では一般入試と変わるところがない。したがって、推薦入試の小論文に対しても、基本的には、一般入試の小論文に対するのと同じような姿勢で対策を講じる必要がある。

しかし、一方で、推薦入試ならではの特殊性があることも事実である。では、どんな点に、

その特殊性は現れるのだろうか。それを説明するために、「推薦入試とはそもそも何か」について、簡単に振り返っておく必要がある。

#### 学力試験で測れない資質や能力を見る

推薦入試は、もともと、教科の学力試験では測ることのできない受験者の資質や能力を見るために、導入された選抜方法である。したがって、近年、推薦入試を実施する大学が増えていくという現状は、学力評価による受験者の選抜に限界があると大学側が感じ始めた結果だといえる。そのため、推薦入試では、学力試験を課すケースが少なく、多くの大学が書類審査、小論文試験、面接試験の三つの組み合わせによって選抜している。こうした選抜方法で大学側が見ようとしているのは、次のような受験者の「資質」や「能力」、あるいは「姿勢」だといえる。

項目	内容
① 志望理由	大学・学部・学科に対する、しっかりと志望動機があるか。または職業も含めた進路選択の理由がはっきりしているか。
② 意欲・関心・適性	志望する学部・学科に対して学びたいという意欲があるか。また専攻分野に対する一定の知識や理解、適性があるか。
③ 個性	自分独自の視点や考え方があるか。またはこれまでどのような活動を行い、将来どのような活動を行いたいのか。(過去に実績がある場合は、人並み優れた能力として、特に評価される)
④ 社会的関心	社会に対して開かれた眼をもっているか。または専門以外のことにも関心があるか。
⑤ 自己表現力	自分の意見や主張を、文章や口頭で表現できる力があるか。あるいは、それらを論理的にまとめ上げる力があるか。